



さあ、新しい
インターフェイスの
可能性を開け

世界の歯学をリードする
独自の教育カリキュラムで
口腔健康科学を学ぶ



2015 東北大学歯学部

Tohoku University School of Dentistry



始めよう、 君たちのグローバル インターフェイスの未来を。



Welcome SENDAI

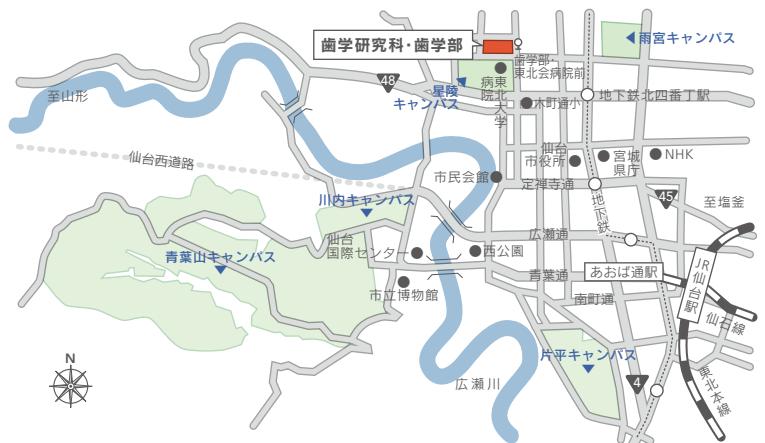
「杜の都・仙台」の魅力

FOOTWORK

交通

高速バス、新幹線、飛行機の便利なアクセス

仙台は高速バス（東京から約6時間・約4,000円～）、新幹線（東京から約2時間・約11,000円）など、高速交通網に恵まれています。



東北大学歯学部で学ぶ世界最高水準の総合教育

1907年の建学以来、「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念、および「実学尊重」の精神を基として発展してきた東北大学に、歯学部が設置されたのは1965年のことです。その後、本学部は2,400名の歯科医師や研究者を輩出してきました。もとより東北大学は、東京大学、京都大学に次ぐわが国3番目の国立大学として設置された日本を代表する総合大学であり、多くの学術的資産と優秀な人材に恵まれ、世界に誇る業績を有します。この伝統ある東北大学に設置された本歯学部は、我が国、さらには世界の歯学をリードする歯科医療人を育成する使命を担っています。また多方面から期待が寄せられています。

私どもの教育目標は、単に歯科医師の養成にとどまらず、「研究第一主義」にもとづいた論理的な思考力を身につけた指導者となる人材の育成にあります。そのため学生自らが課題を探求し、その解決を図る楽しさを学び、学問に対する自発的な興味と意欲を高め、能動的に学習する習慣が身につくような教育を実践しています。これらは、歯のみに視点をおくことなく、口腔全体の健康維持を目的とした「一口腔一単位」、そして患者の身体・精神に眼を向けた「全人的歯科医療」の基本理念に基づきます。本学部には、国際的に活躍できる歯学研究者や、高い思考力と専門性を備え、社会のリーダーとしての歯科医師を養成する体制が整っています。

仙台は緑に恵まれ、「杜の都」とも呼ばれます。またマリンスポーツからウィンタースポーツまで1年を通して自然を楽しめる環境にあります。さらに仙台は学都としても知られ、東北大学をはじめ多くの大学等の学生が暮らす街です。このような仙台の地へ、志を共にする新たな朋を迎え入れんと願っています。



東北大学
歯学研究科長・歯学部長
佐々木 啓一

目次

学部長あいさつ 東北大学歯学部で学ぶ世界最高水準の総合教育	03	歯学部のカリキュラム	07	Campus Life	
古くから続く日本の歯科医療、 今世界が目にする最先端の歯学を学び、 口腔科学者・歯科医師を育成します。	04	1, 2, 3年次のカリキュラム	08	一歯学部生のキャンパスライフ	12
インターフェイス口腔健康学とは、何か。	06	4, 5年次のカリキュラム	09	ホンネで語る。OB座談会	14
		5, 6年次のカリキュラム	10	歯学部附属歯科技工士学校 School for Dental Laboratory Technicians	15
		東北大学病院	11		

東北大学が位置する「杜の都・仙台」は、緑豊かな街並みに東北唯一の政令指定都市としての都市機能が充実しています。また、ちょっと足を延ばせば、豊かな自然にふれられるのも魅力です。

HISTORY

歴史

広瀬川の清流と緑に恵まれた仙台は、400年前に伊達政宗がつくりあげた62万石の城下町。伊達藩の遺産である仙台城址、瑞鳳殿、輪王寺などが点在しています。



CULTURE

市民文化

仙台は「学都」の誇り高く、文化が薫る都市として、美術館や博物館の文化施設が充実。中でも、文化交流のステージ「せんだいメディアテーク」の活動ぶりは注目の。世界的な音楽コンクールの開催はもとより、交流イベント、展覧会など、市民の文化活動が盛んです。



CORE-TOWN

タウン散策

仙台のショッピング&タウン散策には、一番町界隈がおススメ。牛タン、冷やし中華（仙台が発祥の地）、ずんだなどの仙台グルメも要チェック。

FESTIVAL

祭り

5月

まつり
仙台・青葉



8月

まつり
仙台七夕



9月

ティンパ
定禅寺ストリートジャズフェスティバル



12月

光のページェント
SENDAI



古くから続く日本の歯科医療、 今世界が注目する最先端の歯学を学び、 口腔科学者・歯科医師を育成します。

東北大学歯学部で求める人物 (アドミッションポリシー)



歯学部の教育目標は、単に歯科医師の養成にとどまらず、論理的な思考力を身につけ、各分野で指導的立場となる人材を育成することにある。歯科医学の知識や技能を十分に修得できる基礎学力を有する人、問題解決や知識追求に対する意欲を持ち常に前向きに考え行動する資質を有する人、幅広い視野と柔軟な感性を有する人、医療に携わるものとして豊かな人間性を備えた人を求めている。

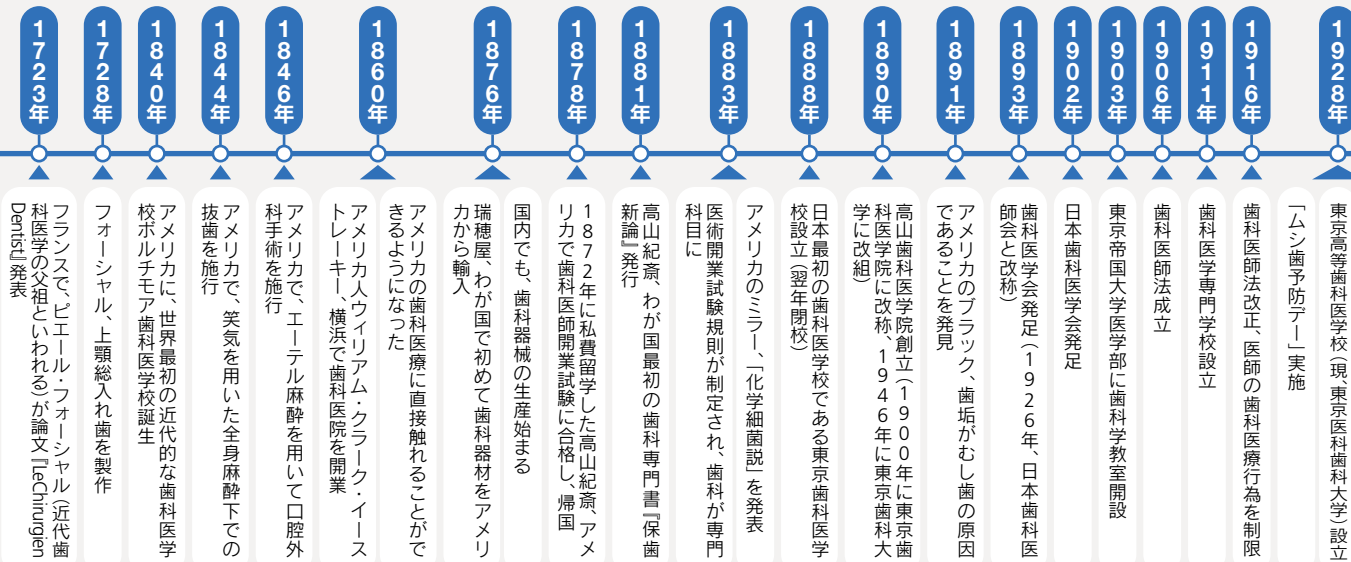
MESSAGE | 在学生からのメッセージ

一見、歯は何も構造がない均一な物質に見えるかもしれませんが。しかし、顕微鏡で観察すると小さい柱や管が見えてきます。私はこのとき、単純ではない歯の構造を見て、人体の不思議さを感じました。さらに、この複雑な構造を考えて歯を削らないと、詰め物がはずれやすくなります。東北大学歯学部は、生命の神秘から知識に基づいた技術まで学べる面白い学部です。一緒に歯学の奥深さに夢中になってみませんか。



歯学部 5年
大堀 文俊さん
(宮城県 仙台第一高等学校 卒)

近代歯科医学と日本の歯科医学の歩み



世界と日本の歯学の歴史

18世紀、ヨーロッパで“近代歯科医学の父祖”といわれるピエール・フォーシャルによって総入れ歯や歯石除去などの近代的な歯科治療が行われ、19世紀に入るとアメリカでほぼ現代に近い歯科医療が始まったといわれます。ちなみに、アメリカにはジョージ・ワシントンの義歯が残されていますが、日本では、それより古い16世紀後半につくられた木床義歯が、発見された最古の義歯として残されています。それを見る限り、日本の歯科医療技術が高い水準にあったことがうかがわれます。

1854年に日米和親条約が結ばれ、下田、函館が開港されるとともに外国人が渡来するようになりました。1860

年には、アメリカ人ウィリアム・クラーク・イーストレーキーが横浜で歯科医院を開業。アメリカの歯科医師を通じて、欧米の近代的歯科医療に直接触れることができるようになりました。

そして1800年代末から1900年代初めにかけて、日本でも歯科医学校が設立され、歯科医師法が整備され、歯科医学会、歯科医師会が発足し、歯学が確立されたのです。黎明期、野口英世は高山歯科学院で給仕をしながら学び、後には講師となって講義を行ったというエピソードも残っています。

1965年、東北大学歯学部発足

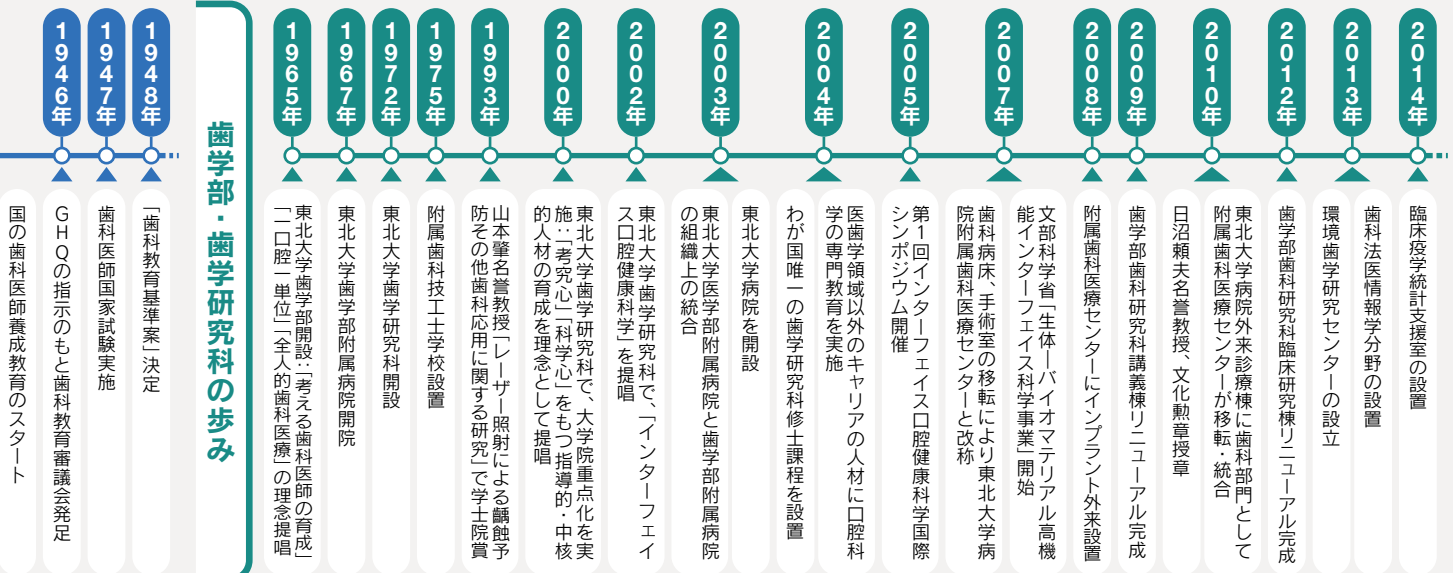
このような流れの中では、1965年に発足した東北大学歯学部の歴史は比較的に新しいものです。しかし、その誕生、発展は「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」の理念のもと、独自のものでした。この理念を診療体系に持ち込むとなると、様々な専門的視点からの診断・治療方針を総合的に取得選択しなければなりません。欧米には、例えば「I have four dentists」という言葉があります。歯科の専門化が進み、「4」は「プライマリーケア（口腔ケ

ア）」「口腔外科」「補綴（歯の修復）」「エンドデンティスト（神経の処置）」のそれぞれの専門歯科医を指しています。つまり、歯学とは、様々な視点から顎口腔領域の健康と疾患を理解し、生体全体の中に位置づけ、その予防、診断、治療の方法を開発し、健康を維持増進させる学問なのです。東北大学歯学部の卒業生は、考える歯科医となり、最善の診療・研究・教育に日夜邁進しています。

参考 歯学の歴史と東北大学歯学部の歴史を詳しく知るには……

- ◆『歯の歴史館』（1981年 日本医療文化センター発行）
- ◆日本歯科医師学会ホームページ <http://www.jsdh.org/>
- ◆東北大学歯学部同窓会ホームページ <http://www.tohoku-dent-alum.jp/>

歯学部・歯学研究科の歩み



インターフェイス口腔健康科学とは、何か。

「インターフェイス口腔健康科学」の誕生

これまで歯学(歯科医学)として認識されてきた学問体系は、口腔疾患の治療論が主体であり、その病因論や根本となる基礎歯学はむしろ細分化され、体系化からはほど遠いものでした。2002年、東北大学大学院歯学研究科は、細分化されてしまった個々の専門分野を繋ぎ、口腔科学として体系化、すなわち再構築するために、「インターフェイス口腔健康科学」を提唱しました。

口腔は、「歯・粘膜・骨・筋等の口腔組織(生体)」、「口腔に寄生する微生物(パラサイト)」、「生体材料(バイオマテリアル)」の3つのシステムから成り立ち、この3システムに咬合力に代表される「生体応力(メカニカルストレス)」が加わることが特徴です。

「インターフェイス口腔健康科学」とは『健全な口腔機能は、システムとシステムの接するところ、すなわちインターフェイスが生物学的および生体力学的に調和することで成り立っており、う蝕や歯周病、顎関節症などの口腔疾患はこれらシステム間インターフェイスの破綻によって生ずる「インターフェイス病」として捉えられる』という新たな概念に立脚するものです。

加えて、口腔そのものが、体内と外界とのインターフェイスであり、誤嚥性肺炎や消化管感染症等の口腔関連疾患もまたシステム間インターフェイスの破綻に起因すると理解されます。

「口腔のインターフェイス」から「学問のインターフェイス」、そして「社会のインターフェイス」へ

この概念は、口腔科学・歯科医療・口腔保健の領域を網羅するだけではなく、医学、農学、材料学、薬学など多岐にわたる学問領域に通ずるものであり、「インターフェイス口腔健康科学」の実践によって歯学研究のさらなる推進、そして関連領域との学際的研究の活発化が可能となります。2007年には文部科学省から「生体-バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業」が認められ、東北大学金属材料研究所、九州大学応用力学研究所とともに、インターフェイスの制御を目指した新しいバイオマテリアルの研究・開発と臨床応用に取り組みました。さらに2012年からは「生物-非生物インテリジェントインターフェイスの創成事業」が、その後継版として始まりました。これらは、既存の学問分野を接合し新しい学問を創成するという「学問のインターフェイス」の具現化なのです。

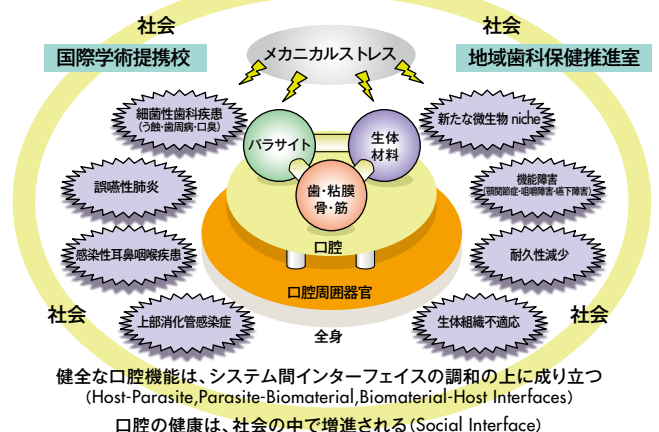
さらに、健全な口腔機能を地域社会や国際社会で実現するためには、地域社会や国際社会との双方向コミュニケーションが

不可欠です。すなわち、地域住民の口腔健康状況を把握しそこにある問題点を解決し地域に還元すること、海外の口腔保健状況を把握し必要なことを導入するとともに、海外と連携し日本の研究成果を国際社会に還元することが必要なのです。東北大学大学院歯学研究科は、地域との連携を強化するために「地域歯科保健推進室」を設置し、海外との連携を強化するために米国(Harvard University)、カナダ(University of British Columbia)、英国(King's College London)、スウェーデン(Umeå University)、フィンランド(Oulu University)、アジア(北京大学、四川大学、天津医科大学、大連市口腔医院、福建医科大学(中国)、ソウル大学校、全南大学校(韓国))、オセアニア(シドニー大学(オーストラリア))の基幹校と国際学術提携を結んでいます。これらは「地域社会・国際社会とのインターフェイス」として、大きな役割を果たしているのです。

「インターフェイス口腔健康科学」の世界への発信

「インターフェイス口腔健康科学」の概念は、現在、次世代の歯学・口腔科学として国内外に広く認められています。2005年には仙台にて「第1回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム(International Symposium for Interface Oral Health Science: IS-IOHS)」を開催し、国内外から多くの研究者が集まりました。その成果は英文書籍としてまとめられ世界に発信されています。第3回(2009年)および第4回(2011年)国際シンポジウムでは仙台の地に加え、米国ボストンにてハーバード大学フォーサイス研究所と共同でサテライトシンポジウムTohoku-Harvard-Forsyth Symposiumが開催され、「インターフェイス口腔健康科学」はますますその広がりを示しています。その基盤は、歯学・口腔科学の独自性と他の学問領域との普遍性を持つ独創的な研究への希求、そこに集う研究教育者と大学院生の情熱、そして国際的・学際的・融合的研究への指向という、歯学研究科が持つ特質にあるのです。

インターフェイス口腔健康科学 Interface Oral Health Science



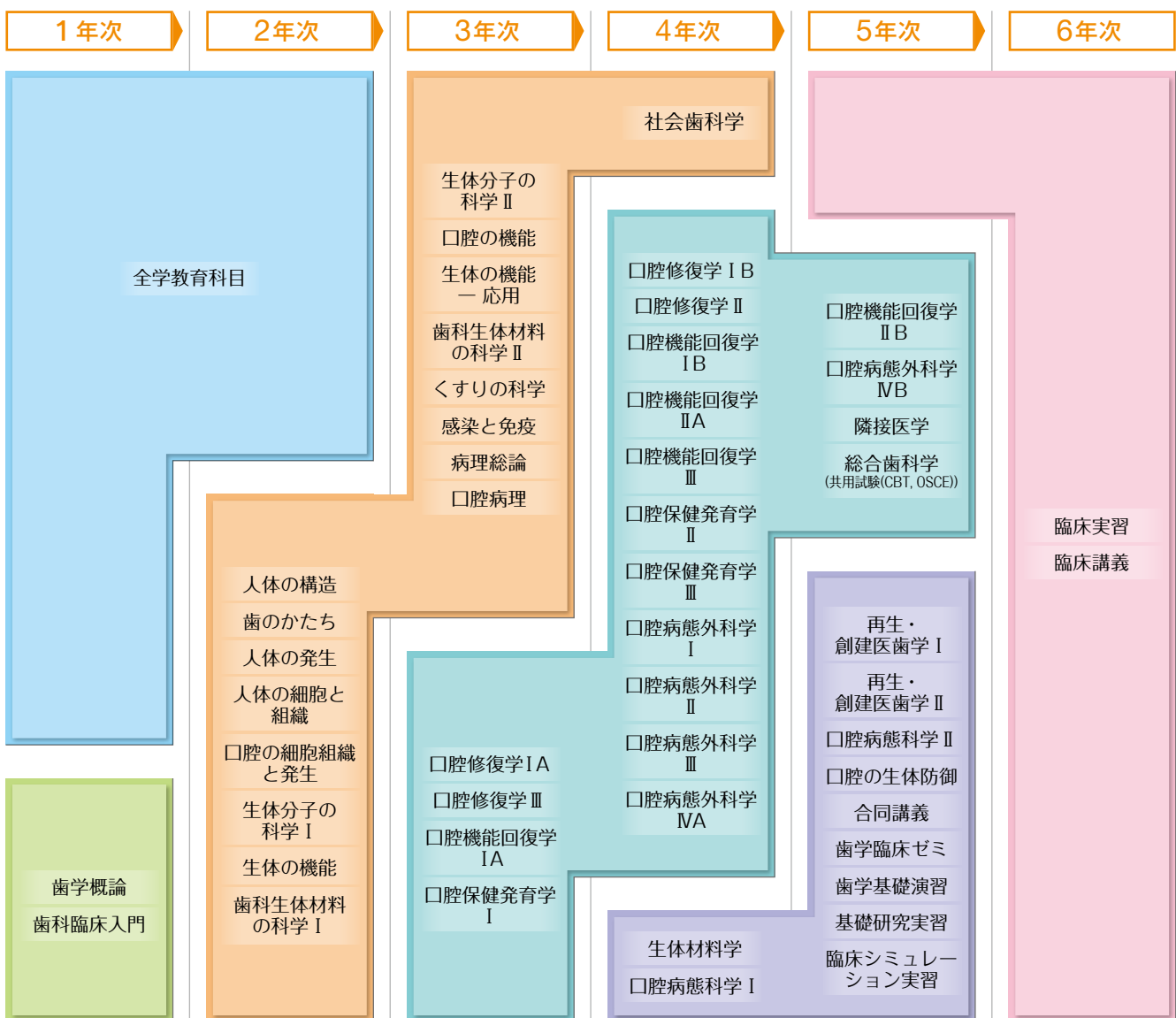
歯学部のカリキュラム

6年間で歯科医師として必要な知識と臨床技術を修得します。

本学部のカリキュラムは、早期に歯学・歯科臨床の概要を学び歯学生としての自覚を涵養する「導入科目」、歯科医師として必要となる基礎歯学と臨床歯学を学ぶ「コア科目」、東北大学歯学部独自の科目で大学院進学や高度専門職への準備となる「アドバンス科目」、そして歯科臨床の実体験を通して学ぶ「臨床実習科目」からなります。本カリキュラムは、臨床実習前に実施される全国共通の「共用試験」に対応しているばかりではなく、歯科医師国家試験にも充分対応しています。さらに、「アドバンス科目」には大学院を先取りした「プレ大学院科目」として「歯学基礎演習」と「基礎研究実習」が含まれており、歯学部卒業時に、既に大学院で学ぶ考え方も身に付くように工夫されています。



6年間のステップ



■ 導入科目 ■ 全学教育科目 ■ コア科目[基礎歯学] ■ コア科目[臨床歯学] ■ アドバンス科目 ■ 臨床実習科目

1、2、3年次のカリキュラム

東北大学歯学部の学生は、1、2年生で、広い視野と柔軟な思考力をもった歯科医師になるために、人間形成の根幹となる基本的教養を学習する「基幹科目」、専攻する専門分野を学ぶうえで基礎となる知識と技能を習得する「展開科目」、外国語および保健体育などの「共通科目」からなる全学教育を受講します。全学教育では、小人数クラスで、総合大学である東北大学の全学部と全研究所の教員が開講する「基礎ゼミ」が必修で、広い学問領域から自分の専攻を超えて授業を選択します。一方、入学直後から最初の専門教育科目として、最新の歯学の概要にふれる「歯学概論」と歯科診療の現場を体験する「歯科臨床入門」との2つの導入科目を受講します。2年生からはコア科目と呼ばれ

る歯科医師となるために必須の専門教育科目が始まります。学生は、まず、解剖学、組織学、生理学、生化学、細菌学、免疫学、薬理学、病理学といった一般医学と同等の内容を含む基礎系科目を学び、その上で、口腔解剖学、口腔組織発生学、口腔生理学、口腔生化学、口腔細菌学、歯科薬理学、口腔病理学、歯科生体材料学などの歯科医学教育独自の基礎系科目を履修します。さらに3年生からは、歯科保存学、予防歯科学、小児歯科学、矯正歯科学など、臨床系科目も始まります。基礎系、臨床系とも、講義に加えて自ら体験して学習する実習の割合が高いことが歯学部のコア科目授業の特徴です。

授業紹介

「人体の細胞と組織」 「口腔の細胞組織と発生」

組織学授業「人体の細胞と組織」では、人体において、多種多様な細胞が秩序よく配列されて組織や臓器をつくり、さらに個体を構成することを学びます。口腔組織発生学授業「口腔の細胞組織と発生」では顎、顔面および口腔と歯のでき方と構成について、より詳しく学習します。どちらの授業でも、講義に加えて、顕微鏡で組織標本を観察する実習の時間があり、実際に自分の目で細胞や組織の特徴を捉え、所見をまとめる力を養います。



笹野 泰之 教授

「人体の構造」「歯のかたち」

当分野は、人体、特に口腔領域の仕組みについての教育を行っています。「人体の構造」では人体解剖により人体の全身の仕組みや機能を理解し、「歯のかたち」では実物の歯(抜去歯)の観察により、ヒトの歯の形態を理解します。これらの講義や実習によって、歯科医師としての最も基礎的で必須の知識を身につけることができます。また人の生と死や医の倫理についても考えます。



市川 博之 教授

「くすりの科学」

3年次「くすりの科学」では、歯科で頻繁に用いられる化学療法薬、抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消毒薬のみならず、末梢神経系・中枢神経系、循環系、呼吸器系、消化器系に作用する薬物も含め、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの作用と作用機序を学びます。この科目を理解するには、2年次から学ぶ専門基礎科目の知識が必要です。



若森 実 教授

「歯科生体材料の科学」

歯は、自然治癒や再生が難しいため、歯科治療の多くは人工の材料を使用してかむ機能を回復させます。歯科生体材料学分野では、最先端の材料科学を駆使して歯科修復材料からインプラント材料まで新しい歯科生体材料の開発やこれらの材料の口腔内環境下における劣化と安全性などを研究しています。大学教育では、歯科の治療に用いられている歯科材料全域についての講義や実験を担当しています。



高田 雄京 准教授



4、5年次のカリキュラム

4、5年生は最も多く臨床科目を学ぶのみならず、これまでに習得した知識と技術を統合していく時期に当たります。4年生のコア科目では、歯科医師として診療をしていくのに必須な臨床科目が最も多く開講されます。ここで学生は、口腔の様々な疾患のメカニズムやその診断・治療法を学びますが、各科目には講義だけでなく模型実習が多く含まれています。5年生は東北大学歯学部独自のアドバンス科目が展開される学年で、最先端の研究成果に基づいた新たな時代の「口の科学」に関する様々な講義が行われると共に、これまでに学んだ知識・技術を統合していくために「歯学臨床ゼミ」、「合同講義」や「臨床シミュレーション実習」などが開講されます。特に平成25年度より新たな試みとして、統合型病態模型を用いた模型実習を「臨床シミュレーション実習」に導入しました。これにより、これまで各科目で行われていた実習に関する知識・技能を有機的に連携させるばかりでなく、総合的診断力や問題解決能力を涵養することを目指します。また、臨床実習に必要な知識・技術・態度が十分に備わっているかを確認するためのテストであるCBTとOSCEが5年生の7月に実施されます。これは全国の歯学部学生に対して行われるものですが、これをパスしないと臨床実習に進むことはできません。またこれからの歯科医師は全身状態や疾患についての深い知識が要求されますので、5年生は「隣接医学」として内科学や耳鼻咽喉科学などを学ぶことになっています。さらに本学では、5年生の段階で歯学研究者としての



基本態度を学ぶ「歯学基礎演習・基礎研究実習」を実施し、大学院レベルでの研究を体験することができます。この授業では、学生一人ひとりが歯学部の基礎系分野を選択して研究室に所属し、約8ヶ月間に渡り、英語の学術論文の読解指導を受け、さらに研究の実践を学びます。この間、学生は教員にほとんどマンツーマンで接し、研究者や高度専門職業人として必要な「研究する心(リサーチマインド)」と「常に考える精神」を身につけます。この授業をきっかけに、臨床を科学する重要性を学ぶと共に多くの学生が研究に関心を抱き、卒業後に大学院進学を目指しています。

授業紹介

「口腔修復学Ⅰ」

口腔修復学Ⅰでは、保存修復学の講義と実習を行います。講義は総論と各論に分かれ、総論では保存修復に必要な前処置、窩洞形態の一般法則、徐痛法、歯髄保護、仮封、窩洞形成法を学習します。各論では、審美修復(接着性コンポジットレジン修復、ポーセレンインレー、漂白法)と金属材料によるインレー修復法を習得します。実習では、基本的なレジン修復症例とメタルインレー症例をシミュレートし治療姿勢、器材の使用法、窩洞形成法、修復法を習得します。



齋藤 正寛教授

「口腔病態外科学Ⅱ・Ⅲ」

口腔外科は、口腔および顎顔面領域の先天異常、後天性の欠損や損傷、口腔に現れるさまざまな疾患および全身疾患の一症状として口腔や顔面に異常をしめす疾患などの診断と治療および障害された形態と機能の外科的な回復を扱う学問であり、医科と歯科の境界に位置し、医科と歯科の双方の総合的な知識が必要となります。本講義では歯科医師として必要となる、これら口腔に現れる様々な疾患の種類、診断と治療法について最新の知見を教授します。



高橋 哲教授

「口腔保健発育学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

口腔保健発育学では、2つの学年を通して、ひとの誕生から成人期までの口腔機能の健全な発育の誘導と支援について学びます。子どもの健全な口腔の育成は、生涯を通じた健康の基となり、「食べる」「話す」「笑う」の生きる力の源となりますので、子どもたちを医療者として慈しみ健康を支援できるようにしっかりと学んで下さい。本講義は、予防歯科学分野、小児発達歯科学分野、顎口腔矯正学分野、障害者歯科治療部が担当します。



小関 健由教授



5、6年次のカリキュラム

臨床実習は歯学部教育の最終課程と位置づけられています。5年生後半から6年生にかけての1年数ヶ月、実際に患者さんの治療を担当することにより、歯科医師としての知識・技術・態度についての総仕上げを行います。本学部の臨床実習は、建学以来「人間尊重」・「人間単位」の実習形態を追求し、その結果、「一口腔一単位」の臨床実習が行われてきました。「一口腔一単位」の意味するところは、単に個々の歯を治療の対象とするのではなく、人を対象として全人的見地から口の中を診査、診断し、包括的医療を実践する診療形態です。患者さん中心の歯科医療、患者さん

に対する畏敬や思いやり、倫理観など医療人として身につけるべき基本を学び、併せて自己研鑽すなわち「人間形成」に努めるという教育理念がここにあります。この形態は東北大学歯学部独自のものであり、他大学からも高い評価を受け、現在では多くの歯学部・歯科大学で取り入れられています。

臨床実習では、約100名の教員（歯科医師及び医師）が実際の指導に当たっています。学生数に比べて教員数が多いことも本学部の特徴であり、学生にとっては恵まれた環境のなかで実習を受けることができます。



歯科実習用人型ロボットSIMROID®(シムロイド)

COLUMN



表情豊かで、おしゃべりなロボットです。なかなかの美人です。痛みや不快さを与えると、人と同じ反応をします。しっかりとした技術を練習しましょう。国立大学では唯一です。

東北大学病院



|| 東北大学病院の紹介

東北大学病院総括副院長
笹野 高嗣 教授 (口腔診断学分野)

東北大学では、医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、平成22年1月からは医科と歯科がひとつの病院のなかで連携して診療しています。病院統合の理由は、医科と歯科が連携することによって高度な医療が可能となることと患者さんの利便性にあります。口の中に症状を呈する病気の多くは、その原因が口腔(こうくう)にあります。ときに全身の病気の初発症状や随伴症状が口腔に現れる場合があります。一方、口腔の病気が原因となり、重篤な全身の病気を引き起こすことも稀ではありません。このような病気に対する医療では、医科歯科連携診療が重要となるのです。

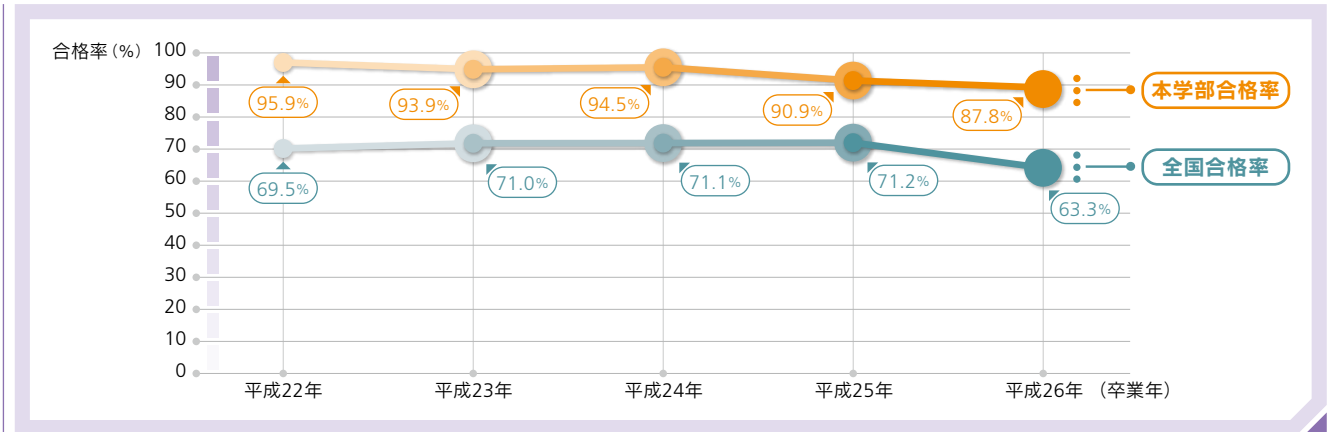
東北大学病院の外来患者総数は1日あたり約3,000名、入院患者総数は1,200名に及びます。この中で歯科部門の外来患者数は

約600名を占めています。当院は全国でも有数の大規模病院であり、患者さんからの信頼が厚く、東北地方はもとより、全国、さらには海外からも患者さんが来院しています。

当院は、患者さんに優しい医療と先進医療の調和を目指し、最先端の医療技術の開発や着実かつ独創的な研究を推進しています。また、当院は人間性豊かな高度専門医療人を育成する教育機関として医学部・歯学部・薬学部の学生教育はもとより、医師・歯科医師の臨床研修や生涯研修に力を注いでいます。

歯学部入学後は、東北大学病院で臨床教育を受けることになります。患者さんから多くのことを学び、世界の歯科医学・歯科医療をリードできる心温かい指導の人材を目指して下さい。

歯科医師国家試験合格状況



卒業後の進路

卒業後は、大学病院等の研修医を経て、大学院進学、開業医勤務等、ほぼ全員が歯学研究または歯科医療に携わっています。



*多くの場合、学会認定専門医は数年間、指導医の元で研修することが必要となります。大学院生として指導医の元に就学すると、専門医取得が容易となります。

Campus Life

将来への
選択肢を広げられるよう、
実力をつける勉強に
励みます



歯学部3年 大河原愛奈さん
(群馬県立中央中等教育学校 卒)

これまで基礎歯学を学んできましたが、そのマスター度によって歯科医師の技量が決まるとされているので、気が抜けませんでした。1年生の歯科臨床入門で現場を見学した際に、口腔外科や障害者歯科に興味を持ち、患者さんに適切に対応するためには幅広い知識・技術を身につけることが重要だと思いました。3年生になって今度は専門科目の授業となり、まんべんなく勉強する必要性をさらに痛感。「国家試験の先を見て、どうやったら歯科医師として地域医療に貢献できるか考えて勉強しなさい」という先生の言葉の意味を今、実感しています。

まだ進路を具体的に決めていません。バドミントン部や歯科医療研究会に所属して活動する中で、OBの方々から話を伺ったりして、将来へ向けて自分の中の選択肢を広げています。もちろん、選択肢を選べるだけの力をつける勉強を、日々頑張りたいです。また、接客業を経験してみたいと、大学病院のカフェでアルバイトも始めました。患者さんとのコミュニケーションなど、将来の自分に役立てたいと願っています。



Schedule スケジュール

7:30 起床 大好きなスイーツと飲み物で朝ごはん

8:35 通学 大学まで自転車で2分

8:50~12:00 授業

12:00 ランチ 歯学部食堂で、手頃な日替わり丼を食べます

PICK UP

歯学部食堂

リニューアルされたばかりのきれいな食堂です



13:00~16:10 授業

16:30~ 授業後 バドミントン部での練習やアルバイトなど

21:00 帰宅 レポートや次の日の準備

1:00 就寝

歯学部

サークル紹介

大学のサークルの他に、歯学部学生だけで構成されるサークルもあります。

準硬式野球部



サッカー部



軟式庭球部



硬式庭球部



弓道部



ゴルフ部



歯学部生のキャンパスライフ

いろいろな経験を積んで、
能力だけでなく、
人間性も高めたいです



歯学部 6年 永田智大さん
(山形県立山形東高等学校 卒)

5年次の12月頃から始まった病院実習に、今、励んでいます。口腔外科、矯正歯科、小児歯科などいろいろな診療科を回り、民間の歯科医院ではなかなか遭遇し得ない事例を目の当たりにできるので、とても勉強になります。専門的な知識・技術など、その日わからなかったことを授業後に調べたりして、理解を深めるようにしています。授業の合間や終了後は軟式テニス部で汗を流すようにしているので、勉強と合わせて1日があつという間です。

めざしたいのは、予防も視野に入れQOL(クオリティ・オブ・ライフ(生活の質))をバックアップする歯科医です。今は、その基盤づくりへさまざまな経験を通して学びたいと考えています。歯科医院のアルバイトはもとより、経営的なセンスを学ぶためビジネス講演会に参加したり、勉強会で知り合った企業の方と食事に行ったりしています。できるだけ生でふれて、学んで考える機会を多くして、能力だけでなく人間性も高めていきたいと思いません。



Schedule スケジュール

7:00 起床 朝ごはんは、納豆、卵、惣菜など食が基本

8:30 通学 大学まで 自転車です

9:00~12:00 授業

12:00 ランチ 弁当を買って 学生ラウンジで食べます

PICK UP 歯学部学生ラウンジ 歯学部学生の憩いの場です



13:00~17:00 授業

17:00~ 授業後 サークル活動や勉強

19:00 夕食

19:30~ 勉強

21:30 帰宅 入浴やテレビ、次の日の準備

24:00 就寝

水泳部



卓球部



バスケット部



軽音部



バドミントン部



バレーボール部



剣道部



研究会
歯科医療



ホンネで語る。OB座談会

「歯学部で学ぶ魅力」

東北大学歯学部を卒業した後、研修医として研鑽を積む皆さんに、これまでの学生生活を顧みて、歯学部で学ぶ魅力について語っていただきました。



互野 亮さん 研修医
宮城県
仙台第二高等学校 卒



佐藤智哉さん 研修医
宮城県
仙台第二高等学校 卒



立谷麻衣さん 研修医
福島県立
会津高等学校 卒



坂本麻由里さん 研修医
静岡県立
静岡高等学校 卒



穴戸駿一さん 研修医
宮城県
仙台第一高等学校 卒



柿内裕輔さん 研修医
東京都
本郷高等学校 卒

QUESTION

歯学部を選んだ理由

坂本 (以下敬称略) 医者である親の背中を見て育ったので、医療系をめざしました。「興味のある分野を選ぶ方が、長続きする」と親にアドバイスされて、自分自身の歯並び矯正に関心が高かったので、歯学部を選びました。

佐藤 私は歯科医になりたいと考えて大学を選択する際に、総合大学の歯学部がいいと思いました。いろいろな学部の人と交流できるので、広い視野を持てるからです。

穴戸 なるほど、そこまで考えて選んだのですか。僕の場合は憧れの東北大学ありきで、学部を絞っていきました。手先が結構、器用ですし、自分なりのビジネス観にもふさわしく、しかも地域医療のレベルアップを支えることができるということで、歯医者をめざす歯学部を選んだのです。

互野 私も同じように、ふるさと宮城の地域医療に貢献したいと考えた時に、医者よりも歯医者の方が自分に合っていると判断しました。先生が医者と歯医者の違いについて、「医者は手術などで病巣をとることで治療が終わるけれど、歯医者は機能回復させるまで対応していくことになる」と言っておられ、納得できましたね。

QUESTION

6年間の学びの感想

柿内 歯医者は1本の道になっていると思っていたら、口腔外科、矯正歯科、小児歯科など専門的に分かれていました。歯科領域は、それだけ広く、深く探求することで、地域の先進医療に貢献できるのだとわかりました。

互野 そうですよ。その意味では、知識・技術を習得して、国家試験の資格を取得すれば終わりではないのです。この人にはこの治療というように、患者さんそれぞれに対応する診療が要で、人と接するのが未熟ではダメだと痛感しています。

佐藤 学ぶほどに、歯と口は毎日の生活に欠かせず、幸せや喜びにかなり影響するのだと認識できました。それだけに、互野君の意見に同感ですし、患者さんの痛みや辛さがわかり、患者さんの気持ちに寄り添える歯科医師をめざしたいです。

立谷 6年間を経た今、人と会うとすぐ歯を見てもしまいます(笑)。歯は、歯並びはもちろん形もサイズも人それぞれで、一つひとつ丁寧に見ないと虫歯の判断も難しいです。知識・技術を磨くだけでなく、経験を重ねてこそ的確に対処できるのですよね。

坂本 そうそう。それと、口の中だけ診ればいいのではなく、口内の症状によって口の病気が全身疾患なのかを、確認する必要性が理解できましたね。医師、歯科医師、介護士、薬剤師などによるチーム医療が重要視される今、医療人としてのあり方も問われているように思います。

QUESTION

東北大学で学んで良かったこと

立谷 歯学部だけでなく医学部の先生や開業医の方などの、人的ネットワークが広く、何か相談したい時も心強いです。摂食燕下りハビリテーションに興味を持ったきっかけも、開業医の方と知り合えたからです。

互野 そうだね。人的ネットワークの良さと言えば、臨床医と研究をいっしょに取り組んで行けるのは、ここで学んだ強みですね。

佐藤 それに加えて、この分野を究めてみたいという希望がかなえられ、密度の濃い探求ができるステージがあるので、その分野で他に負けない力をつけられます。

坂本 友だちがいろんな学部にできて、医学部にもいます。偏らない考え方ができたし、医学部から見た歯科医、周りから見た歯科医を知ることができたので、マイナス面にも目を向け客観視できました。

穴戸 僕もいい友だちを得ただけでなく、いい先生に恵まれましたね。ある先生は発想が豊かで、車の製品のしくみを歯の薬品開発に応用したりしています。研究する姿勢を教えてもらい、大学に残って研究職を志望したいと考えるようになりました。

柿内 自然と都会が共存する仙台は住みやすいし、勉強と遊びに全力投球できます。同期はノリのいい仲間だし、病院実習などを通して先生と距離感が縮まって相談しやすいです。高校生の皆さん、歯学の勉強は東北大学がいいですよ！

歯学部附属 歯科技工士学校

School for Dental Laboratory Technicians



歯学部附属
歯科技工士学校長
菊池 雅彦 教授

本校の教育理念

- 1 東北大学の輝かしい歴史と伝統のもと優れた教育環境と高度なカリキュラムにより歯科技工界の指導者となる人材を輩出する。
- 2 高い倫理観と使命感を備え幅広い視野をもって社会貢献できる高度専門医療人としての歯科技工士を養成する。

学校長挨拶

本校は、東北大学歯学部附属する歯科技工士学校であり、東北・北海道地方で唯一の国立大学法人の歯科技工士養成機関です。本校は、東北大学歯学部が創立されてから10年後の昭和50年4月に、歯科技工界のリーダーとなる歯科技工士の育成を目標として設置されました。本校が設置されている星陵キャンパスは、仙台市の中心部に位置し、歯学部・歯学研究科、医学部・医学系研究科、加齢医学研究所、東北大学病院が集まって、東日本の医歯学教育と先端医療の一大拠点を形成しています。

本校の修業年限は2年間で、教育内容は非常に豊富で多岐にわたっています。歯科技工に関する知識と技能をもたない入学者を、2年後には国家試験に合格できるレベルにまで到達させるカリキュラムが組まれています。本校では3名の専任教員のほか、東北大学歯学部・歯学研究科の教授、准教授を含む多数の非常勤講師陣を擁し、様々な分野の知識や技術を教授しています。2年次には東北大学病院での臨床技工実習が組み込まれており、実際の患者さんに装着される技工物の製作から治療見学まで行う充実した内容となっています。

近年の歯科医療の発展はめざましく、コンピュータ技術の進歩に伴って開発されたCAD/CAM機器の歯科技工への応用のほか、新たな生体材料や骨再生を応用したインプラント治療などが歯科医療に取り入れられています。これら最新のテクノロジーに対応できる、人間性豊かで優秀な21世紀を担う歯科技工士の育成に取り組んでいます。将来、有望な歯科技工士となる意欲をもった学生諸君と本校でお目にかかる日を心からお待ちしております。

カリキュラム紹介

本校の修業年限2年間のカリキュラムは、大きく4つの段階に分けられます。1年次の前期課程では、歯科医学の中から歯科技工士に必要な歯科英語や歯の解剖学、歯科理工学、有床義歯学、歯冠修復学などの講義と歯の彫刻実習が行われ、“歯を作る”ための大切な基礎を学びます。続いて後期課程では、主に歯列模型により実際の技工物を製作する実習が行われるようになり、歯科矯正学、小児歯科学などの講義や実習も加わります。2年生に進級後の前期課程では、実際に患者さんに使用される金属や材料などを使用し臨床をシミュレートした実習が行われ、後期課程では2年間の総仕上げとして東北大学病院での臨床技工実習が行われます。この臨床技工実習は、本校ならではの特徴的なカリキュラムであり、診療室で学生が自作した技工物の装着に立ち会うことにより、医療人としての自覚を促すとともに、卒業後にスムーズに就業できるような工夫がなされています。



ACCESS

仙台駅からの交通手段 【仙台市営バスご利用の場合】

- ▶ 仙台駅西口バスプール⑬番乗り場から
「山手町経由 桜ヶ丘七丁目行き」で、「歯学部・東北会病院前」下車
- ▶ 仙台駅西口バスプール⑭番乗り場から
「北山トンネル・中山経由北中山・西中山行き」「北山トンネル・中山・泉ビレジ経由 住吉台・根白石行き」で、「歯学部・東北会病院前」下車
- ▶ 仙台駅西口バスプール⑮番乗り場から
「青葉通・大学病院経由 子平町－北山循環」で、「歯学部・東北会病院前」下車

【地下鉄ご利用の場合】

- ▶ 「北四番丁」で下車
北口2番出口より八幡町方面へ徒歩約10分

東北大学大学院歯学研究科・歯学部

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号
 TEL. 022-717-8248 FAX. 022-717-8279
 HP. <http://www.dent.tohoku.ac.jp/>
 E-mail. den-kyom@bureau.tohoku.ac.jp